

神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議（第9回）報告

【日 時】 平成29年2月22日（水） 10：00～10:20

【場 所】 島根県出雲合同庁舎 702会議室

【出席者】 第9回調整会議出席者名簿のとおり

【傍聴者】 27名（うち報道関係6名）

【議事内容】

（1）前回議事内容の確認・・・事務局説明（参考－1）

（2）前回からの動き

①神戸川の潮発電所水利使用に関する出雲市の基本方針に対する神戸川再生推進会議の見解・・・事務局説明（資料－1）（資料－2）

○回答の要旨

- ・水利権の更新期間を10年、環境放流量を常時毎秒2tとすることについては、容認できない。
- ・中国電力が行う減水区間対策、ダム湖水質対策は、当然の責任、義務である。
- ・検証組織を立上げ、10年後に分水の必要性を含め再検討することについては、分水廃止の可否を判断するという目的達成のため、論理的に成立しない検証を10年間繰り返すのは時間の浪費である。

②神戸川の潮発電所水利使用に関する島根県の見解

・・・事務局説明（資料－3）（資料－4）

- ・国土交通省出雲河川事務所が示された、「①現時点において、水利権が失効するケースに該当する事実があるとは、承知していない。②分水による水利使用許可をする時点で、下流へ及ぼす影響、取水が及ぼす影響等をチェックした上で許可しており、許可している時点で適法。」との見解から、現時点で分水を廃止する理由は見いだせない状況。
- ・「神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議」による関係市町の意見調整が図られた内容に沿って判断をしていきたいと考えている。

(3) 関係市町の意見まとめ

①出雲市からの意見

○経緯

- ・ 出雲市基本方針をベースにした地元3県議会議員による調整が行われた。
- ・ 神戸川再生推進会議から出雲市に対し、16項目の要望を改めて中国電力に申し入れるよう要請され、地域住民の思いを強く伝えた。
- ・ 中国電力としては、更新後の水利使用期間を10年間にすることについては受け入れできないという回答があった。
- ・ 神戸川再生推進会議に対して、中国電力からの回答を伝え、併せてその他の要請内容については、環境等を評価する組織の中で市が議題として提起していくことを回答した。
- ・ これを受けて、神戸川再生推進会議から地元3県議会議員により調整された確認書案で了承するという回答を受けた。

○出雲市としての提案・・・出雲市配布資料【確認要旨】

- ・ 神戸川の河川環境の維持、保全を考える上では分水は好ましくないと考えている。
- ・ 環境等評価組織では、神戸川の河川環境など、さまざまな課題について関係者、関係機関と連携しながら取り組んでいく。
- ・ 中国電力におかれては、これに対して真摯に向かい合っていただくよう要請。

②飯南町からの意見

- ・ 出雲市の意見に同意。
- ・ 冬場の放流量をできる限り流していただきたいので、常時毎秒2トンの放流をお願いしたい。
- ・ 中国電力が実施されるダム湖での水質対策などを引き続き着実に実施してもらいたい。

③美郷町からの意見

- ・ 出雲市と飯南町の意見に同意。

(4) 中国電力の意向確認

- ・ 調整会議の意見は大変厳しい内容ではあるが、出雲市、飯南町及び美郷町からの強い要請と受け止め、受け入れさせていただく。
- ・ 常時毎秒2トンとする環境放流については、設備の保守点検等のために一

時的に停止せざるを得ない点を了解いただきたい。

- ・引き続き神戸川の環境保全対策に全力で取り組み、地域の皆様に丁寧に説明し、信頼関係の構築に努める。

(5) 今後の手続き

- ・本日まとまった意見を文書化し、内容を協議した上で新しい確認書を締結する。
- ・中国電力は、この確認書を基に国土交通省に補正申請を行う。
- ・この申請は国土交通省において審査され、その過程で河川法第36条第1項に基づき、県知事に意見聴取が行われ、これを受け、県は関係市町に意見聴取を行う。
- ・神戸川の河川環境に関する情報共有、意見交換等を行うため、環境等を評価する組織を立ち上げる。
- ・この組織の構成は、県が事務局となり、国土交通省出雲河川事務所、農業者、中国電力、神戸川漁業協同組合、学識経験者、関係市町などの参加を求める。
- ・調整会議は今後も存続し、環境等を評価する組織における意見やモニタリング等の調査結果を踏まえ、中間時点における各機関の対策の提案及び水利使用期間満了時までには分水の必要性を含め、さまざまな角度から再検討を行う。

(6) まとめ

- ・確認書に盛り込まれる河川環境に関する情報共有、意見交換を行う組織を立上げ、10年をかけて議論する。
- ・この組織では県が事務局となり、確認書の内容が確実に履行されるよう、関係者の意見を聞きながら状況の把握及び共有を行い、神戸川がより良い河川となるよう努力していく。